

# 消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成26年3月1日(土)～14日(金)

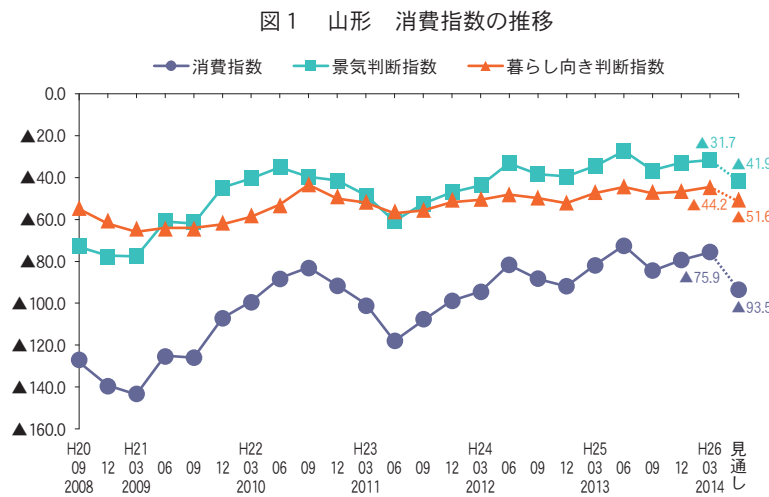
山形/モニター世帯数: 496世帯  
有効回答数: 456世帯(回答率: 91.9%)  
秋田/モニター世帯数: 382世帯  
有効回答数: 334世帯(回答率: 87.4%)

## 消費指数

### 第31回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは2期連続で若干ながら回復したものの、先行きは大幅悪化の見通し～

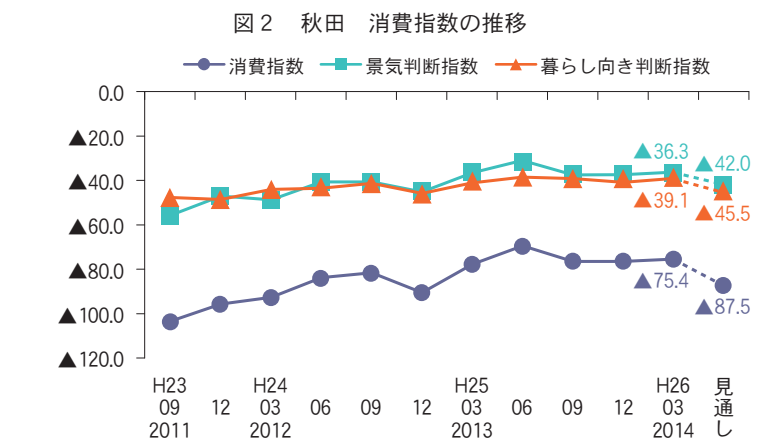
消費指数は▲75.9(前期比3.5ポイント上昇)と、2期連続で若干ながら回復した。内訳は景気判断指数が▲31.7(前期比1.2ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲44.2(前期比2.3ポイント上昇)で、いずれも2期連続の回復となっている。  
今後の見通しは、消費指数が▲93.5(今回調査比17.6ポイント下落)と大幅に悪化の見通しとなっている。内訳は景気判断指数が▲41.9(今回調査比10.2ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲51.6(今回調査比7.4ポイント下落)と、いずれも悪化の見通しとなり、景気判断指数の悪化幅がより大きく見込まれている。



### 第11回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドはほぼ横ばいながら、暮らし向きには先行き不透明感～

消費指数は▲75.4(前期比1.2ポイント上昇)と極めて小幅な改善で、ほぼ横ばいとなっている。内訳は、景気判断指数が▲36.3(前期比0.4ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲39.1(前期比0.8ポイント上昇)となっている。  
今後の見通しは、▲87.5(今回調査比12.1ポイント下落)と大幅に悪化が見込まれている。内訳は、景気判断指数が▲42.0(今回調査比5.7ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲45.5(今回調査比6.4ポイント下落)とともに悪化する見通しとなっている。  
総括すると、消費税増税を控え物価上昇への懸念が一段と強まるなか、世帯収入や保有資産増加への期待感は乏しく、当面の暮らし向きには先行き不透明感が色濃く窺える。



#### 【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

## 景気と暮らし向き

### 景気判断

山形の指数は▲31.7(前期比1.2ポイント上昇)と、2期連続で若干回復した。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲6.5(前期比±0)と横ばいとなり、「雇用環境」が▲5.5(前期比1.5ポイント上昇)と若干回復した一方で、「物価(日用品)」が▲19.7(前期比0.3ポイント下落)と若干悪化した。今後の見通しは、景気判断指数が▲41.9と大幅に悪化の見通しとなり、3つの個別指数もすべて悪化の見込み。

秋田の指数は▲36.3(前期比0.4ポイント上昇)と若干ながら2期連続で改善した。景気判断指数を形成する個別指数では、「景気(県内)」は▲7.1(前期比0.9ポイント上昇)、「雇用環境」は▲9.0(前期比0.4ポイント上昇)と、ともに小幅ながら改善がみられた一方、「物価(日用品)」は▲20.2(前期比0.9ポイント下落)と5期連続で悪化した。今後の見通しは、景気判断指数が▲42.0と悪化に転じる見通しとなり、3つの個別指数もすべて悪化が見込まれている。

### 暮らし向き判断

山形の指数は▲44.2(前期比2.3ポイント上昇)となり、2期連続で回復した。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」のすべての指数でわずかず回復している。今後の見通しは、暮らし向き判断指数が▲51.6と大幅に悪化の見通しで、個別指数の中で「お金の使い方」の悪化幅が特に大きい。

秋田の指数は▲39.1(前期比0.8ポイント上昇)と3期ぶりに改善した。暮らし向き判断指数を形成する個別指数をみると、「世帯収入」が▲10.2(同0.1ポイント下落)とわずかに悪化したものの、その他の項目はいずれも改善となった。今後の見通しは、暮らし向き判断指数が▲45.5と悪化の見通し。個別指数については「お金の使い方」の悪化幅が特に大きくなっている。

### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が477千円と前年同期比で16千円の増加となり、支出面では支出計が404千円と前年同期比で20千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は84.7%となり、前年同期に比べて7.4ポイントの大幅減少となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が428千円となり、前年同期比で22千円の減少となった。支出面では支出合計が392千円となり、前年同期比で27千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は91.4%で、前年同期に比べて10.3ポイント上昇した。

図3 山形 景気判断指数(内訳)の推移

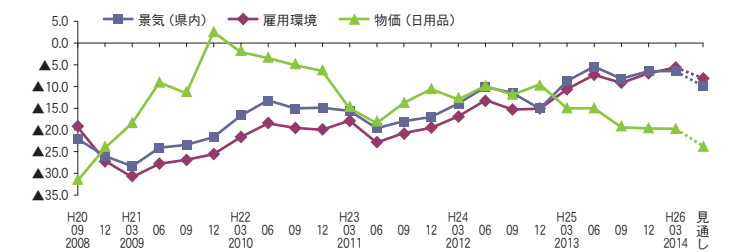


図4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移

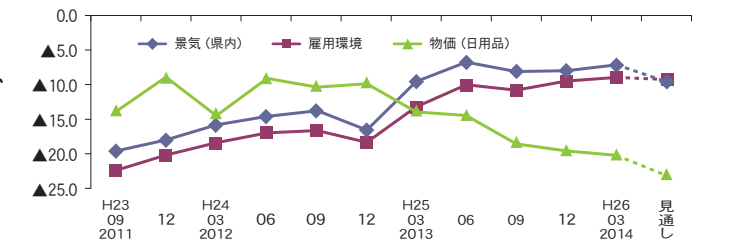


図5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

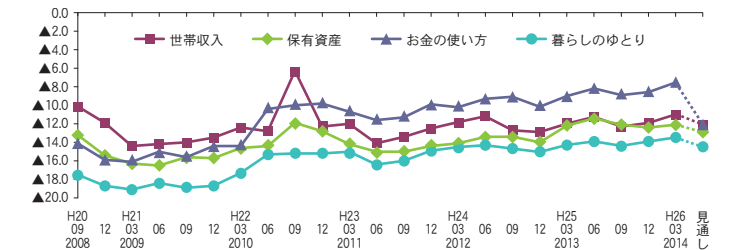


図6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

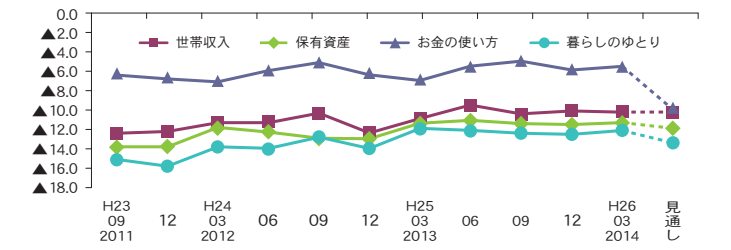


図7 山形 平均消費性向の推移

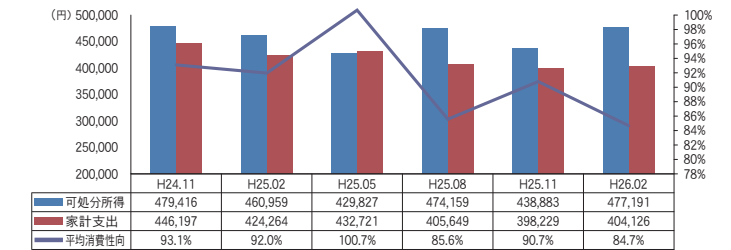


図8 秋田 平均消費性向の推移

